

聖書：ヨシュア記7章10～15節

説教題：身をきよめなさい

## 1 敗北の原因

ヨシュアは、イスラエルの民を率いて約束の地カナンに入ろうとしています。ヨルダン川を越え、高い城壁で囲まれていたエリコも攻め落とし、連戦連勝の勢いで進んできます。すべてが順調に進んでいくのを見て、少しずつ自信をつけていきます。

次の目標としてアイという町に向かうことになりました。様子を探るために送った偵察隊からは、攻めるのにはそれほど手間はかからない、簡単な作戦で終了するだろうとの報告がありました。ヨシュアは、自信をもってアイの攻撃命令を出します。ところが、結果は予想外の敗北です。逃げてくる途中で犠牲者も出てしまいました。

ヨシュアは大きなショックを受けます。二つ理由があります。一つは、なぜ負けてしまったのか、まったく理由が思いつきません。二つ目には、敵がこの勢いに乗じてイスラエルを攻めてくる可能性ができました。もしそうなれば、逃げ道がありません。うしろに引き返そうとしても、背後は先ほど越えてきたヨルダン川。つまり逃げ道がふさがれた状態。ヨシュアは真っ青になりながら神に祈ります。

その時初めて神は、ヨシュアにアイとの戦いに敗れた原因を明らかにされました。10節から12節。「立て。あなたはどのようにしてそのようにひれ伏しているのか。イスラエルは罪を犯した。現に、彼らは、わたしが彼らに命じたわたしの契約を破り、聖絶のものの中か

ら取り、盗み、偽って、それを自分たちのものの中に入れさえた。だから、イスラエル人は敵の前に立つことができず、敵に背を見せたのだ。」

イスラエルが罪を犯したので戦いに敗れたのは、聖絶のものの中から取って自分のものにしたからだ、と神は言われます。

## 2 アカンの罪

### 1) 厳しい罰

この聖絶のものについては、神はあらかじめイスラエルに命令しておりました。6章18, 19節です。「ただ、あなたがたは、聖絶のものに手を出すな。聖絶のものにしないため、聖絶のものを取って、イスラエルの宿営を聖絶のものにし、これを災いをもたらさないためである。ただし、銀、金、および青銅の器、鉄の器はすべて、主のために聖別されたものだから、主の宝物倉に持ち込まなければならない。」

後にわかっていくことですが、罪を犯したのは、アカンというひとりの男でした。エリコを攻め落とすとき、アカンは偶然目の前にころがっていた高価な金銀、コートの種類を見つけてしまいます。それらは聖絶のものであって主の宝物倉に納めなければなりません。ところが彼は、これをこっそりと自宅に持ち帰ってしまったのです。

確かにアカンは神の命令を破り罪を犯しました。ですから刑罰を受けなければならぬということまでは理解できます。しかし、

その刑罰のことになると、理解が難しくなります。15節。「その聖絶のものを持っている者が取り分けられたなら、その者は、所有物全部といっしょに、火で焼かれなければならない。彼が主の契約を破り、イスラエルの中の恥辱となることをしたからである。』

あまりにも厳しすぎると思わないでしょうか。日本の刑法なら、他人の者を盗みをして隠し持っていたというのですから、せいぜい懲役数年の刑でしょう。死刑になることはありません。どうしてこんなに厳しい刑罰を受けなければならないのか。

## 2) アカンは私たちそのもの

「聖書の神は厳しすぎる。そんなことをいちいちやっていたら息苦しくなる。もっと大目に見るべきだ。」おそらくこんな批判が出てきそうです。なぜこう言いたくなるのでしょうか。アカンのことを読むとき、私たちはアカンのことを他人事とは思えなくなっていくからではないですか。アカンは何をしたでしょう。目の前に今まで見たこともない高価な金や銀、触れたこともない高価な毛皮のコートが置かれてあるのを偶然見てしまいました。そばにはだれもいません。一人だけです。こっそり持ち帰ってもだれも気がつきません。もちろん主の命令を忘れたわけではない。守らなければならないとわかっています。でも欲しいという欲望を抑えることはできません。思わず手を出してしまいました。

皆さんはこれと似たような経験はないでしょうか。正直に申しますと、私は何度もあります。主の前に罪を重ねてきました。もしヨシュアの時代であれば、私もアカンのように火で焼かれなければならないかもしれませんでした。

アカンの中に自分の姿を見てしまうので、

アカンは火で焼き殺されなければならないと聞くと、「それは厳しい」と言いたくなるのです。

それでも残酷な刑罰だと言うのでしょうか。刑罰が残酷なのではありません。正しく言い直せば、罪が残酷なのです。私たちは、罪のこととなるといつも小さい方向に考えようとする傾向があります。しかし、神の目から見れば罪の及ぼす結果がどれほど悲惨なものであるのか。刑罰の重さから、知らされていきます。

## 3 一人の罪はイスラエルの罪

さて、罪を犯したのはアカン一人です。ところが聖書にはこう書いてあります。11節。「イスラエルは罪を犯した。現に彼らは、わたしが彼らに命じたわたしの契約を破り、聖絶のものの中から取り、盗み、偽って、それを自分たちのものの中に入れさせた。」

罪を犯したのはアカン一人ですから、神が「イスラエルの中のひとりが罪を犯した」と言うのなら納得できます。ところが神は、「イスラエルは罪を犯した。彼らはこういうことをした。」と言っておられます。アカンひとりの罪だとは言わず、イスラエル全体の罪であるとはっきりと指摘するのです。

ここを読んでとまどわない方はいないと思います。私たちの常識とまったく違うからです。「罪を犯した人が責任をとるべきであって、どうして罪を犯していない私もいっしょに責任を負わなければならないのか。」おそらくそう言いたくなるでしょう。たったひとりの人が罪を犯しただけで、イスラエル全体が約束の地に入れなくなる。非常に厳しい神の基準がここに示されています。

#### 4 聖くなければ約束の地に入れない

いったいどうしたらよいのでしょうか。そこで神はこのように語ります。13 節。「立て。身をきよめなさい。あなたがたは、あすのために身をきよめなさい。イスラエルの神、主がこう仰せられるからだ。『イスラエルよ。あなたのうちに、聖絶のものがある。あなたがたその聖絶のものを、あなたあたのうちから除き去るまで、敵の前に立つことはできない。』」

神道にも「みそぎ」ということばがあつて、身をきよめることを大切に考える考えがあります。選挙では、汚職やスキャンダルなどで辞職した政治家が返り咲いたりすると『みそぎを済ませた』と言って、まるで何事もなかったかのような大きな顔をすることがあります。

キリスト教の「身をきよめなさい」は「みそぎ」とどう違うのでしょうか。水に打たれれば聖くなるのではありません。選挙に勝ちさえすれば過去のことは水に流してきれいさっぱりきれいになるというのでもありません。聖絶のものを除き去らないかぎり、聖くなれないのです。聖くなるためには、罪の根源となるものを徹底的に暴き出すしかありません。罪は、必ず神の前で取り扱われなければなりません。でなければ、約束の地に入ることができないのです。

#### 5 キリストがしてくださること

ここまで三つのことを見てきました。一つ目。主の命令に反して聖絶のものを盗み隠し、罪を犯したアカンは、火で焼かれなければならないと言われ、そのことがあまりにも厳しく感じられました。

二つ目、罪を犯したのはアカンひとりです。

個人プレーでやったことなのに、神はイスラエル全体の罪であると指摘しました。

三つ目。罪をきよめない限り約束の地に入ることはできない。この三つです。どうでしょう。この三つの基準をクリアすることは簡単でしょうか。簡単だと言う人はいないでしょう。いずれも非常に厳しい基準です。

今日の箇所から、いろいろなことを教えられます。具体的な例を挙げてみましょう。みはさんはこんなことを思ったことありませんか。「私はきちんと信仰生活を送っている。でもあの人はなんといい加減なことか。」「私はきちんとやっつてがんばっているのに、どうしてあの人はやらないのか。」そんなふうに顔をしかめながら、批判的に見たことはなかったでしょうか。

よくありがちな光景です。しかし今日の聖書箇所を照らしてみるとどうなるか。もし私以外の他の人の信仰が弱いと見えたとしても、信仰の弱いその人だけが問題なのではない。神はあなたのことも信仰の弱い人であると見ている。「イスラエルは罪を犯した」とはそのような意味です。

そうしたらどうなりますか。まじめな方は、救われるために何か努力をしなければ、と考える傾向があります。もちろん、それは尊いことではあります。神はお一人お一人のことを大切にされます。しかし同時に、神は全体をもご覧になっています。全体をご覧になってそのなかにひとりでも弱っている者がいたなら、見過ごしにはできません。なんとかしなければとお考えになる方なのです。

信仰は自分ひとりのもの、とどこかで考えていたかもしれません。自分ががんばれば立派な信仰者になれる、と信じていたかもしれません。そうではありません。救いはイスラ

エル全体なのです。個人の救いではないことも覚えていただきたいのです。

そうしますと、努力さえすれば救われるということはありません。だからキリストが必要なのです。

神は、アカンのように罪を犯したらこうするぞと脅かしているわけではありません。むしろ反対です。アカンのようなことが二度と起こってはならないと考えられます。だから、キリストが十字架で残酷と思える厳しい処罰をお受けになるのです。この方がしてくださいなければ、だれが聖くなれたでしょうか。厳しいと思えば思うほど、キリストがすべてその厳しいところを通られたことを覚えていのです。

¥

先ほど、他の信仰者のことを批判的に見てしまうこととお話ししました。それとはまた違って、自分はだめクリスチャンと思い込んで落ち込む方もおります。でも、安心していただきたいのです。イスラエルという大きな集団の中でアカンの罪を厳しく問い続ける神がおられるのです。一見厳しいように思えますが、イエス・キリストはそれをまったく反対の見方に変えてくださるのです。教会という集団の中で、もしも自分は落ちこぼれだと思っている方がいるなら、主は決してその方をお見捨てになる方ではないのです。どんなに他の人たちの信仰がすばらしかったとしても、主はなおひとりの弱っている信仰者を助けようと心を砕かれます。

主は教会をかえりみてくださると同時に、ひとりひとりをも大切に見てくださいます。この方を通してでなければだれも天の御国に入ることができない。その恵みをもう一度確認させていただきたいと思います。